

2016年6月27日

電通はじめ世界の大手広告6グループが 「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けて連携

株式会社電通(本社:東京都港区、社長:石井 直)および電通イージス・ネットワークを中心とする電通グループは、2015年9月25日の第70回国連総会で採択の「我々の世界を変革する:持続可能な開発のため2030アジェンダ」に基づき設定された「持続可能な開発目標」(SDGs:Sustainable Development Goals)について、潘 基文 国連事務総長からの呼びかけに応じて、世界の大手広告5グループと連携し、特定テーマの達成に向けて協力していくことで合意しました。

SDGsを中核とする2030アジェンダでは、「国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択したアジェンダを基に、2015年から2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くします」とされています。

今回の大手広告6グループ(電通、Havas、IPG、Omnicom、Publicis、WPP)による連携は、ビジネスにおける競合関係を超越して、グローバルに取り組む画期的なイニシアチブです。

その第一歩として、第63回「カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル」(Cannes Lions International Festival of Creativity 2016)で6月24日に行われたセッションに各グループの経営トップが集い、同じステージで課題意識を改めて共有、世界で最も切迫している課題の解決に向けて、広告会社はその強みであるクリエイティビティを生かしていくことで合意しました。今後共同でSDGsをサポートする広告キャンペーン「Common Ground」(共通の立場)などを展開していくこととなります。

これに伴い、6グループの経営トップは次の共同声明を発表しました。

「広告キャンペーン『Common Ground』は画期的なプロジェクトです。国連で採択されたSDGsの達成に向けて、6グループがライバル関係を超越して手を取り合い、世界が抱える深刻な課題に取り組むものです。熾烈な競争関係にある広告会社同士が広い共通課題のために連携・協業することで、他の業界・企業においても、同じような取り組みや関係性が生まれることを期待しています」

■Common Ground のロゴマーク



■SDGs サポートキャンペーン「Common Ground」のコミュニケーションビジュアル



テーマは、上段は左から「教育」「健康」「気候変動」「安全な水」
下段は左から「飢餓」「貧困」「難民」

■17の持続可能な開発目標（SDGs）



以上

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社電通 コーポレート・コミュニケーション室 広報部

河南、長澤 TEL : 03-6216-8041